

## 令和4年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和4年7月21日（木） 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

|      |        |     |        |
|------|--------|-----|--------|
| 委員長  | 伊藤 誠   | 委 員 | 加藤 みどり |
| 副委員長 | 武田 弘   | 委 員 | 岩崎 照代  |
| 委 員  | 瀧澤 真   | 委 員 | 篠原 美智代 |
| 委 員  | 高橋 佳代子 | 委 員 | 唐木 義昭  |
| 委 員  | 友田 賢司  |     |        |

(欠席委員)

|     |        |  |  |
|-----|--------|--|--|
| 委 員 | 菊池 眞太郎 |  |  |
|-----|--------|--|--|

4 出席職員

|        |       |     |        |
|--------|-------|-----|--------|
| 教育長    | 御園 朋夫 | 館 長 | 西原 崇浩  |
| 生涯学習課長 | 高浦 正充 | 主 幹 | 稲葉 理恵  |
| 顧 問    | 井口 崇  | 主 幹 | 桐村 久美子 |

5 傍聴定員と傍聴人数

|      |    |
|------|----|
| 傍聴定員 | 5人 |
| 傍聴人数 | 0人 |

6 報告

(1) 令和3年度郷土博物館事業報告について

(2) その他

## 7 議 題

- (1) 令和3年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について
- (2) 令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価における目標値について
- (3) その他

## 8 議事

伊藤委員長      では、報告(1) 令和3年度郷土博物館事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局            資料に基づき説明

伊藤委員長      報告(1) 令和3年度郷土博物館事業報告について何か質問ありませんか。

唐木委員          3月に市民学芸員養成講座の最終回で、お誘いいただき、睦沢町歴史民俗資料館の学芸員の講演を聞くことが出来た。そこで館の基本的な方向性について質問したところ、「広く浅く」ということだった。当博物館の方向性はいかがか。その時に今後も当博物館とは協力関係を築いていきたいという話があったが、睦沢とのその後の協力関係はどうか教えていただきたい。

2つ目は他の博物館との協力関係ということで、廊下の掲示板に、当博物館は、金のすずや久留里との協力関係を結んでいますとコメントが入っていましたが、これはどういうことをやってきましたか。

3つ目、読売新聞に、博物館の問題点として、学芸員に非常に負担がかかっているという記事がありました。理由は、市民サービスとか企画展などで、資料調査がしたくてもできないという話があったのですが、私としては、企画展や市民サービスも重要だと考える。要するに、あっちもこっちもでは人手が足りなくてできないという記事だったと思うが、当博物館はこれについてどう考えるか。

## 事務局

まず基本姿勢ですが、一言でいうのであれば「地域密着」です。

睦沢歴史民俗資料館とは、令和2年度の市民学芸員養成講座の一環で、茂原市郷土資料館と合わせて見学しました。令和3年度は、大変好評だった企画展「太平洋戦争」が期間延長になったと聞いて見学を申し込んだところ、ちょうど1週間前に終了するというので、学芸員の方のご厚意で睦沢町の史跡・文化財を案内してくださいました。その際に企画展「太平洋戦争」に関わるお話を講演していただく約束をしたのですが、それが、唐木委員が参加してくださった講演会です。その後の協力体制ですが、睦沢の学芸員の友人である八千代市郷土博物館の職員も講演会に参加しており、八千代市が春に富士山の企画展を開催するというので、当館も秋に富士山の企画展を計画していたこともあり、八千代との協力体制に発展することができました。今年は睦沢とは特別何か協力ということではないですが、交流は続いています。

調査研究と市民サービスは、地域博物館にとってはどちらも重要です。そして、展覧会はもちろん、イベント等の教育普及事業、博学連携事業等についても、しっかりとした調査研究に基づいていなければ、博物館の事業としては成り立たないので、やはり調査研究は重要ということになります。バランスよくやるのは大変ですが、もう少し調査研究の時間を取りたいというのが本音です。しかし、先程「地域密着です」と言ったとおり、市民との関わり、市民サービス、市内にある資料等の調査、すべて大切に行っております。

## 西原館長

1点目に地域密着とお答えいたしました。地域密着の典型的な現れが市民学芸員だと把握しております。市民学芸員を結成する時に博物館のスローガンにはしていなかったのですが、市民とともに歩む博物館というのが、博物館が昭和57年にオープンした時から、掲げていたスローガンになりますので、それが一番大きなところだと思います。それから、木更津の金のすず、久留里城址資料館との連携ですが、こちらは君津地方公立博物館協議会として博物館がある3市で連携を組んでいます。以前は3館で連携して巡回展なども行っていました。現在力を入れているのは、災害があった時など各館で、被害を受けた博物館に手伝いに行くということ、という連携はしております。他、研修会などを開催しています。

読売の記事は、私も確認しましたが、市民サービス、袖博として一番に何をしているかというところなのですから、目に見えて何がというのは、やったことすべてと認識しているのですけれども、学芸員の存在自体が大きなことだと思います。学芸員はいろいろなことを知っております。この知識というのは、市民に還元しないと存在自体が不必要になってしまいますので、そういったところを展示、あるいは問い合わせと言ったところで、市民にお伝えするこれが一番の市民サービスではないかと考えます。

お伝えする手段としては、例えばA 3の 23 ページに記載している(3)-10。相談に対応できる体制が整っている。3年度の取り組みとしてはレファレンス件数 43 件とあります。それが多いか少ないかはいろいろな考え方があり、今後検証していかなければならないことですが、こういったところで問い合わせについての学芸員の知識を伝えていく手段、見えない所でこういうこともしている、1回の問い合わせで、それなりの対応をしています。そういったところで、市民サービスをしているのが実情です。

**唐木委員** 他の博物館との協力関係のことですけれど、参考のためにいろいろと見に行ったのですが、そこで感じたことを言わせていただいています。他の博物館とか、いわゆる資料の交換とか、そういった面でも協力関係があって、他の博物館で企画展をやっていれば見に行くとか、お互いに切磋琢磨する。他の博物館の企画展は見た方が良い。私は他の博物館の企画展をよく見に行くが、睦沢は、建物はここの半分くらいしかないが、非常にがんばっているという感がある。睦沢とは今後も協力関係を結んで行ってほしい。他館と協力しながら、切磋琢磨してやってほしい。

**伊藤委員長** 今までにも加曽利貝塚博物館や市川の考古博物館など、協議会でも何回か行っています。

**井口顧問** 睦沢との関係ですが、その学芸員の方とは県の博物館の研修等で会うことが多くて、睦沢は友の会がその当時すごかったので、町にお金がなくて、町から流出していく資料を食い止めることが出来ない、資料購入ができない、それは

こちらも同じような悩みを持っていたのですけれど、その時に友の会員でお金を集めて、資料館が食い止めることができないなら、友の会が食い止めてやるというような、威勢のいい会長がいらっしゃって、こちらの友の会員を連れて行って、討論会というか意見交換会をしたことがあります。そういうこともあって、毎年何かしているというわけではないのですけれど、信頼関係はできていると思います。

**伊藤委員長** 他、質疑はよろしいでしょうか。報告（２）その他はありませんか。

**事務局** 特にありません。

**伊藤委員長** では、議題（１）令和３年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局** 資料に基づき説明

**伊藤委員長** 議題（１）令和３年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、何か質問ありませんか。

**篠原委員** 危機管理マニュアルがないということですが、市民会館とか、博物館は危機管理マニュアルはないのですか。学校は、必ずマニュアルがあるから、てっきりあると思っていました。今年は市民会館も不審者が結構いて、本当に早くやらないといけないと思いました。

**西原館長** 市役所の施設管理としては、基本的にそういうものは揃えないといけない。ですので、博物館も市に準じたマニュアルはあります。ただ、我々が求めているのはもう１つ下の階層であり、例えば、災害が起こったら資料をどうするかといったところで、一般的なマニュアルはあります。

**篠原委員** 子どもたちや高齢者がいらっしゃっているから、地震が起きたらどうするか

とか、そういったものかと思っていました。

**西原館長** 袖博に即した避難経路といったものは作っていないです。そういったものの、もっと細かい所は整えないといけないというのが、1つの大きな課題だったので、今年何とか形にできればと思っています。

**篠原委員** 地震に関しては早くやった方が良いと思います。

**西原館長** 早めに対応するようにします。

**伊藤委員長** 避難場所を明確にすれば。その他は、よろしいですか。

続きまして、議題（2）令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価における目標値について、事務局から説明をお願いします。

**事務局** 資料に基づき説明

**伊藤委員長** 議題議題（2）令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価における目標値について、質問ありませんか。

**唐木委員** 企画展「くらだし・おひろめ」を見ましたが、その中で木や金属の保存処理の話など、博物館の苦労話やバックヤードがわかってよかった。博物館の業務に対する苦労とか、思いとか本音とかはもっと伝えてもいいのではないかと感じた。その方が博物館に対して理解も深まるのではないだろうか。

**事務局** ちょうど私たちの意図したところをくんでいただき、ありがとうございます。

**岩崎委員** レファレンスは、具体的にどんな方がどんな質問をされているのですか。

**事務局** 今年の春頃から大変多かったのが、鎌倉街道とか源頼朝について。やはり世間で話題になったようなことについては、すぐに博物館に問い合わせてくると

いうことがあります。それから多いのが上総掘りについてです。実際に井戸を掘りたいんだけどという話も多いのですが、技術を学びたいとか見学したいとか、そういったことも含めまして、上総掘りについての問い合わせはかなり多いです。夏休みに入りまして、子どもたちの調べ学習が増えております。こちらは本当に多岐にわたりますが、やはり今年は大河ドラマの影響もあって鎌倉街道の質問は相変わらずありますし、生物について等。昨年ですと御城印の関係もあり、蔵波城についての質問がかなりありました。山野貝塚についても質問がくることがあります。ちょっと話題になったり、目につくことについては、質問が集まります。

**岩崎委員** 鎌倉街道とか、委員になってから知ったので、テレビなどにも取り上げられているのをみると、あつと思います。そういうところでも触れて行くというのは大事なんだと思います。

**武田委員** 鎌倉街道は家の横から通っていくのですが、一般の人にはわかりにくいのではないかと思うのですが、野田の方に行くとき看板があり、ここが鎌倉街道だとわかるのですが、下新田も整備しないといけないなと地区の人たちとははなしているのですが、やってくれる人いないのでしょうか。

**伊藤委員長** 表示は必要ですね。

**西原館長** 根形公民館の入口に姉崎高校の生徒が作った標柱があります。  
レファレンスは、市役所内からの問い合わせもかなりあります。市役所に問い合わせたらわからない、博物館に聞けばわかるのでは、と回されてくる。博物館の存在意義はそういうところにもあると思うのですが、どこに聞いたらいいいかわからないけど博物館に聞けばわかるかもという軽い気持ちで電話してくれていいと思います。

**友田委員** レファレンスというのは、電話か、直接来館されるのでしょうか。

西原館長 電話が多いですが、直接来る人もいます。ここに来て問い合わせる人は目的意識を持っている。自分で何について調べたいというのを持っている人は直接来館する。ちょっとよくわからないけど、聞いてみようというのは、電話の方が多いかと思います。

瀧澤委員 目標値と達成度の話がありましたが、目標値1回は○か×かにしかならないが、それでよいのか。

西原館長 おっしゃるとおり、これはできたか、できないかという究極の評価になってしまいます。なぜこの評価になったかという、これまでもともと数値化が難しいという話が前提にあって、客観的な評価をこれまでやらせていただいて、それではちゃんとした評価はできないだろうと目標をたててやろうということになったのですが、もう少し考えながら、段階的に評価できる目標値を考えていきたいと思います。今回は、3年度にできたものを評価の基準にしています。改善できるものはしていきたい。

伊藤委員長 よろしいでしょうか。では、意見もたくさん出ましたので、議題（2）については以上といたします。次、議題（3）その他

事務局 追加の資料をご覧ください。「山野貝塚整備基本計画策定委員会委員の選出について」という依頼の文書です。これは本来であればこの場で委員を選出するべきところですが、締め切りが7月6日ということで会議に間に合わなかったもので、委員長と相談の上、唐木委員にお願いし、承諾いただきました。唐木委員、よろしくお願いいたします。

伊藤委員長 他になれば、閉会とします。

みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

閉会

# 令和4年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

## 会議次第

日 時 令和4年7月21日（木）  
午前10時から11時40分  
場 所 郷土博物館 研修室

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

### 3 教育長あいさつ

### 4 報 告

（1）令和3年度郷土博物館事業報告について（10分）【質疑5分】

（2）その他

### 5 議 題

（1）令和3年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について（20分）  
【質疑30分】

（2）令和4年度郷土博物館の運営に関する点検と評価における目標値について  
（10分）【質疑15分】

（3）その他

### 6 閉 会

## 第 2 0 期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

| 氏 名                  | 選 出 区 分              | 備 考        |
|----------------------|----------------------|------------|
| たきざわ まこと<br>瀧澤 真     | 学校教育<br>蔵波小校長        | 新任         |
| たかはし か よ こ<br>高橋 佳代子 | 社会教育<br>文化協会         | 再任<br>5 期目 |
| ともだ けんじ<br>友田 賢司     | 社会教育<br>子ども会育成会      | 1 期目       |
| たけだ ひろし<br>武田 弘      | 社会教育<br>郷土博物館友の会     | 再任<br>5 期目 |
| かとう みどり<br>加藤 みどり    | 社会教育<br>市民学芸員        | 再任<br>5 期目 |
| いわさき てるよ<br>岩崎 照代    | 家庭教育<br>放課後子ども教室スタッフ | 再任<br>5 期目 |
| いとう まこと<br>伊藤 誠      | 学識経験者                | 再任<br>8 期目 |
| きくち しんたろう<br>菊池 真太郎  | 学識経験者                | 再任<br>5 期目 |
| しのはら み ち よ<br>篠原 美智代 | 学識経験者                | 再任<br>4 期目 |
| からき よしあき<br>唐木 義昭    | 学識経験者<br>公募委員        | 再任<br>2 期目 |

任 期 令和 3 年 2 月 1 日から令和 5 年 1 月 3 1 日まで

## 報告（１）令和３年度郷土博物館事業報告について

### １ 令和３年度の経営方針及び重点施策

#### （１）経営方針

第３期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かで いきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、引き続き「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す４つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとしたボランティアの育成にも力を入れて参ります。

そして、新型コロナウイルス感染症対策も含め、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

#### （２）重点施策

##### ① 地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に 努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、記録映像を制作するなど、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の展開により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

##### 調査研究

- ・ 袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・ 袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・ 中世荘園に関する調査
- ・ 民俗・祭祀に関する調査 等

##### 地域資料管理活用事業の展開

- ・ 地域資料の調査収集及び活用
- ・ 収蔵保管資料の適正な管理
- ・ 収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業協同組合資料）
- ・ ホームページによる情報発信
- ・ 古文書等表題データベース作成
- ・ 埋蔵文化財写真デジタル化
- ・ 『袖ヶ浦市史研究』第２１号募集（博物館開館４０周年記念号）

##### 民俗文化財伝承・活用事業 **令和３年度重点取組**

- ・上総掘り技術の記録映像制作
- ・上総掘り講座の実施

## ② 市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民のニーズを考慮しながら、常設展示の部分的な更新を図り、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。また、非常時における講座・イベントのあり方や企画展等への来館者対応について、他館の事例等を参考に、より安全で効果的な方法を模索し、実践します。

小学校の学習指導要領の改訂に併せて博学連携事業の更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動の担い手である市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

### ア 展示更新推進事業の展開

- ・企画展 4 回
  - i 企画展Ⅰ「病と医療」
  - ii **市制施行 30 周年記念特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」** 令和3年度重点取組
  - iii 企画展Ⅱ 出土遺物公開事業巡回展
  - iv 市制施行 30 周年記念 企画展Ⅲ「アクアラインとなるほど館の軌跡」
- ・常設展示の部分更新（近現代）
- ・旧進藤家住宅での各種展示
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催

### イ 教育普及事業の推進

- ・山野貝塚関連事業の開催（初歩から始める大人のための縄文講座）
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会との共催による自然と歴史の散策会
- ・夏の子ども向けイベントの開催

### ウ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援（市内・市外）
- ・資料の貸出
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成
- ・アウトリーチ活動（出前講座・出前授業・現場出張）
- ・山野貝塚体験型プログラム実践（中学生版）
- ・学校図書館との連携促進（物流システムの活用）

## エ みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
- ・多言語対応の推進
- ・ハンズオン（実際に手を触れるなどの体験学習）の充実

## オ ボランティアの養成と支援

- ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
- ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート
- ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 **令和3年度重点取組**
- ・ミュージアムサポーターの募集と育成
- ・市民学芸員『どんぐりの会』会報（どんぐり便り）の発行
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- ・グループ活動の支援
- ・館蔵資料整理

## カ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- ・活動場所の確保
- ・資材調達
- ・活動PR
- ・補助金による活動援助（動画制作ほか）

## キ 郷土博物館友の会活動の支援

- ・『友の会だより 49・50号』の発行
- ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)への支援
- ・友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援
- ・凧の会が参加する「かずさの国 凧あげフェスタ」への協力

## ク 幼児期からの博物館体験

- ・そではくのもり（市民サロン）での親子での体験活動

## ③ 市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、安心・安全な施設を維持します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理していきます。

### 施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・I P M（日常的に収蔵環境を管理し、カビや病虫害の発生を抑えること：総合的病虫害管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
- ・施設の老朽化に伴う改修工事等の実施
- ・研修室屋上防水改修工事

#### ④ 博物館としての独自性を追求します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

#### ア 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

#### イ 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

#### ウ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。
- ・千葉県史跡整備協議会事業への協力

#### エ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

#### オ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

#### カ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・公民館・図書館との連携

## 2 郷土博物館事業の記録

### ①博物館協議会

博物館法第 20 条に基づき、博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等について審議しました。特に新型コロナウイルス禍における博物館事業の在り方やその成果について、重点的に協議を行いました。

|             | 時期・内容                                                                                                         | 人数   |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第 1 回博物館協議会 | 令和 3 年 7 月 16 日（金）<br>令和 2 年度郷土博物館事業報告について<br>令和 2 年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について<br>令和 3 年度郷土博物館の事業計画について ほか        | 9 人  |
| 第 2 回博物館協議会 | 令和 3 年 11 月 17 日（水）<br>「郷土博物館の使命・そではなく 30 の展望」の見直しについて<br>アクアラインなるほど館の今後の活用について ほか                            | 9 人  |
| 第 3 回博物館協議会 | 令和 4 年 2 月 18 日（金）【書面開催】<br>令和 3 年度郷土博物館事業の成果と課題について<br>令和 4 年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和 4 年度事業計画（案）について ほか | 10 人 |

### ②博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに日本博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。新型コロナウイルスの影響により、調査研究および研修の多くは中止となりましたが、各種関係団体との情報交換は継続して実施しました。

- ・ 1 月 25 日 令和 3 年度君津地方公立博物館協議会第 1 回研修会  
(木更津市郷土博物館金のすず)

### ③調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進め、調査の成果を展示や教育普及事業に活用することができました。

- ・ 山野貝塚に関する調査
- ・ 中世荘園に関する調査
- ・ 民俗・祭祀に関する調査
- ・ 袖ヶ浦市内の生物に関する調査 ほか

### ④教育普及事業

地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環として、各種講習・講座の充実を図りました。

また、上総掘りの技術を後世に残すため、技術伝承用の映像記録を作成しました。

|                                                                                                                  |                |      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------|
| <b>★博物館講座「袖ヶ浦学」 (3回)</b><br>歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。                                                 | 6月～11月         | 一般   |
| 第159回 企画展Ⅰ「病と医療」関連講座 近代における千葉県と疫病 ー千葉県文書館の企画展からー<br>講師：豊川 公裕 氏（千葉県文書館）                                           | 6月12日（土）       | 45人  |
| 第160回 袖ヶ浦市史研究第20号刊行記念 古墳時代前期首長墓の分布より見た君津地方の地域性<br>講師：酒巻 忠史 氏（木更津市教育委員会文化課職員）                                     | 8月28日（土）       | 31人  |
| 第161回特別展「かつて見た袖ヶ浦の海ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」関連講座 東京湾の過去・現在・未来 ーいきものと漁業の歩みー<br>講師：鳥羽 光晴 氏（東京海洋大学客員教授）                    | 11月20日（土）      | 34人  |
|                                                                                                                  | 合計             | 110人 |
| <b>★そではく体験会ー古代人の技術に挑戦ー</b><br>6月5日(土)・6日(日)の2日間のミュージアムフェスティバルを予定していたが延期となり、名称と内容を変更し、10月9日（土）に規模を縮小して行いました。      | 10月9日（土）       | 238人 |
| <b>★自然と歴史の散策会</b><br>県内外の史跡・博物館等を見学し、歴史に親しむとともに市民の交流の場として、事業を展開しています。例年、年2回実施していますが、新型コロナウイルスの影響により、今年度は中止としました。 | 中止（COVID-19対応） |      |
| <b>★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)</b>                                                                          | 通年             |      |
| 袖ヶ浦市民会館 乳幼児家庭学級 ザリガニ釣り体験                                                                                         | 7月10日（土）       | 55人  |
| 総合教育センター なつやすみ調べ学習相談会【歴史・郷土】【生物】                                                                                 | 7月28日（水）       | 16人  |
| 袖ヶ浦公園管理組合 袖ヶ浦公園動植物観察会                                                                                            | 7月29日(木)       | 8人   |
| 長浦公民館 子育てパパ応援講座 親子で虫取り                                                                                           | 9月4日(土)        | 28人  |
| 安房学講座 房総の熊野信仰<br>※9月5日（日）予定であったが中止                                                                               | 中止（COVID-19対応） |      |
| 房総古代道研究会 望陀布と古代の紡織                                                                                               | 9月18日(土)       | 40人  |
| 根形公民館第3回地域再発見講座 袖ヶ浦の熊野信仰                                                                                         | 9月18日(土)       | 16人  |
| 袖ヶ浦市市制施行30周年記念事業 みんなの里まつり<br>袖ヶ浦市の有形文化財と万葉植物園を知ろう！                                                               | 9月19日(日)       | 16人  |
| アクアイースト観光連盟御城印ツアー                                                                                                | 10月7日(木)       | 21人  |
| 根形公民館ニコニコ教室 根形地区に関する歴史講話<br>（根形公民館視聴覚室）、常設展・特別展・収蔵庫見学                                                            | 10月13日(水)      | 33人  |

|                                                                                                        |                            |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------|
| (袖ヶ浦市郷土博物館)                                                                                            |                            |      |
| 退職校長会研修会（根形地区散策）                                                                                       | 10月20日(水)                  | 10人  |
| 平岡公民館第5回ひらおかシニアセミナー ウオーキング「下泉地区文化財探訪」                                                                  | 11月12日(金)                  | 17人  |
| 市民会館第4回子どもチャレンジ教室 奈良輪めぐり                                                                               | 11月20日(土)                  | 13人  |
| 市民会館男性セミナー 山野貝塚現地見学、山野貝塚出土遺物速報展（@郷土博物館）見学                                                              | 12月12日(日)                  | 20人  |
| 市民会館第1回地域人材育成講座 昭和地区の見どころ                                                                              | 12月19日（日）                  | 8人   |
| 袖ヶ浦市観光協会 御城印発行記念ツアー<br>※2月11日（金・祝）予定であったが中止                                                            | 中止（COVID-19 対応）            |      |
| 市民会館第3回地域人材育成講座                                                                                        | 3月27日（日）<br>（2月27日（日）より延期） | 4人   |
|                                                                                                        | 合計                         | 305人 |
| <b>★その他各種普及事業</b><br>市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催しています。                                           | 通年                         |      |
| かずさの国 風あげフェスタ（袖ヶ浦海浜公園）<br>※5月4日（火・祝）予定であったが中止                                                          | 中止（COVID-19 対応）            |      |
| 夏休みジュニア学芸員体験「上池いきもの調査隊！」<br>（博物館実習関連事業 上池周辺の水中の生き物の捕獲・調査）                                              | 7月31日(土)                   | 16人  |
| 企画展Ⅰ「病と医療」関連事業展示解説会（第1回）                                                                               | 5月23日（日）                   | 10人  |
| 企画展Ⅰ「病と医療」関連事業展示解説会（第2回）                                                                               | 6月19日（土）                   | 15人  |
| 企画展Ⅰ「病と医療」関連事業展示解説会（第3回）                                                                               | 7月4日（日）                    | 18人  |
| 袖ヶ浦市市制施行30周年記念事業 令和3年度特別展<br>「かつて見た袖ヶ浦の海 ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」展示解説会（第1回）<br>※午前・午後の2回                     | 10月9日(土)                   | 32人  |
| 袖ヶ浦市市制施行30周年記念事業 令和3年度特別展<br>かつて見た袖ヶ浦の海 ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー 関連事業 展示解説会（第2回）<br>※午前・午後の2回                 | 11月14日(日)                  | 17人  |
| 盤洲干潟を知ろう！干潟の生き物観察会（袖ヶ浦市市制施行30周年記念事業 令和3年度特別展「かつて見た袖ヶ浦の海 ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」関連事業）<br>※10月17日（日）予定であったが中止 | 雨天中止                       |      |
| 親子で海苔すき体験会ー袖ヶ浦の海苔づくりをしようー（袖ヶ浦市市制施行30周年記念事業 令和3年度特別展「かつて見た袖ヶ浦の海 ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」関連事業）                 | 延期（COVID-19 対応）            |      |

|                                                                                                                                              |                           |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----|
| ※1月15日（土）予定であったが延期                                                                                                                           |                           |     |
| 企画展Ⅱ 令和3年度出土遺物公開事業「らくがく縄文館－縄文土器のマナビを楽しむ－」展示解説会（第1回）                                                                                          | 1月16日（日）                  | 20人 |
| 企画展Ⅱ 令和3年度出土遺物公開事業「らくがく縄文館－縄文土器のマナビを楽しむ－」展示解説会（第2回）                                                                                          | 2月19日（土）                  | 15人 |
| ワークショップ 「土器のペーパークラフトをつくろう」（第1回・第2回）（企画展Ⅱ 令和3年度出土遺物公開事業「らくがく縄文館－縄文土器のマナビを楽しむ－」関連事業）<br>※1月29日（土）・2月13日（日）予定であったが中止                            | 中止（COVID-19対応）            |     |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第1回 縄文時代ってどんな時代<br>講師：上守 秀明 氏（千葉県教育振興財団職員）                                                             | 8月21日（土）                  | 12人 |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第2回 そでがうらの縄文時代<br>講師：西原 崇浩（袖ヶ浦市郷土博物館館長）                                                                | 9月4日（土）                   | 17人 |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第3回 加曽利貝塚のすがた<br>講師：長原 亘 氏（千葉市立加曽利貝塚博物館職員）                                                             | 10月16日（土）                 | 16人 |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第4回 加曽利貝塚発掘調査見学・荒屋敷貝塚見学<br>講師：千葉市埋蔵文化財調査センター職員                                                         | 11月13日（土）                 | 13人 |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第5回 「令和3年度山野貝塚講演会 山野貝塚のこれからを探る」へ参加<br>※1月29日（土）予定であったが中止                                               | 中止（COVID-19対応）            |     |
| 初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅢ<br>第6回 企画展Ⅱ「令和3年度出土遺物公開事業 らくがく縄文館－縄文土器のマナビを楽しむ－」展示解説会<br>講師：西原 崇浩（袖ヶ浦市郷土博物館 館長）                           | 2月26日（土）<br>（2月5日（土）より延期） | 10人 |
| 上総掘りの技術記録映像制作<br>国庫補助事業「民俗文化財等伝承・活用事業 上総掘りの技術」は令和2～5年の期間に実施し、令和3～5年度の3か年で上総掘りの技術を後世に伝承し継承するための映像記録を制作します。（各年1本制作）<br>また、関連講座で上総掘り体験講座を開催します。 | 9月～3月                     |     |

|                                                                                                                                                               |                         |         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------|
| 上総掘り体験講座（第 1 回）座学「上総掘りの技術と歴史」講師：上総掘り技術伝承研究会<br>※講座生 5 名・袖ヶ浦高校生徒 4 名                                                                                           | 10 月 3 日（日）             | 9 人     |
| 上総掘り体験講座（第 2 回）「コシタ作り」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                      | 10 月 17 日（日）            | 4 人     |
| 上総掘り体験講座（第 3 回）「クサビ作り」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                      | 11 月 3 日（水・祝）           | 9 人     |
| 上総掘り体験講座（第 4 回）「竹の採取」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                       | 11 月 7 日（日）             | 9 人     |
| 上総掘り体験講座（第 5 回）「竹ひご作り」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                      | 11 月 21 日（日）            | 9 人     |
| 上総掘り体験講座（第 6 回）「足場の組み方」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                     | 11 月 28 日（日）            | 8 人     |
| 上総掘り体験講座（第 7 回）「足場の組み方」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                     | 12 月 5 日（日）             | 5 人     |
| 上総掘り体験講座（第 8 回）「上総掘り井戸見学」                                                                                                                                     | 12 月 19 日（日）            | 7 人     |
| 上総掘り体験講座（第 9 回）「竹ひご継ぎ」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                      | 1 月 8 日（土）              | 7 人     |
| 上総掘り体験講座（臨時講座）「掘削体験①」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                       | 1 月 16 日（日）             | 3 人     |
| 上総掘り体験講座（第 10 回）「掘削体験②」<br>講師：上総掘り技術伝承研究会                                                                                                                     | 1 月 22 日（土）             | 9 人     |
| 袖ヶ浦市郷土博物館友の会「凧の会」新春凧あげ会<br>※1 月 22 日（土）予定であったが中止                                                                                                              | 中止（COVID-19 対応）         |         |
| 【協働事業】友の会主催「もっと知りたい講座」<br>講師：平田和弘氏（千葉県立中央博物館）                                                                                                                 | 12 月 18 日（土）            | 26 人    |
|                                                                                                                                                               | 合計                      | 316 人   |
| <b>★友の会活動への支援</b><br>7 グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)が自主的に活動しています。<br>会報「友の会だより」49・50 号を発行しました。<br>自主活動のほかに館との共催事業として「もっと知りたい講座」を実施しました。 | 通年                      | 会員 63 人 |
| <b>★上総掘り技術伝承研究会の活動支援</b><br>例年は博物館水のふるさと内で掘削等の活動をしていますが、令和 3 年度は、博物館が国庫補助事業として主催する「上総掘り体験講座」へ講師として参加してもらいました。                                                 | 通年<br>(毎週土曜日、もしくは日曜日活動) | 会員 16 人 |

### ⑤地域資料管理活用事業

館蔵資料（古文書等）の台帳作成及び整理や閲覧対応（デジタル公図を含む）のほか、収蔵資料の保存修復処理及び埋蔵文化財写真のデジタル化を行いました。収蔵環境の維持と整備にも努め、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備を行っています。また、会計年度任用職員を雇用し、収蔵庫の資料整理を行いました。博物館の収集・収蔵資料を整理・情報化し、その成果の一部を『袖ヶ浦市史研究』第 21 号として刊行するため、原稿を募集しました。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復（35 点）
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究
- ・企画展・特別展開催に伴う収蔵民具、漁具及び古文書の調査
- ・収蔵資料の公開
- ・ホームページのリニューアル、SNS による情報発信
- ・古文書等表題データベース作成

### ⑥博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図りました。また、体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能しています。

|                                     |    |                                 |
|-------------------------------------|----|---------------------------------|
| 校外学習支援（事業目標 年 15 校）                 | 通年 | 市内外の小<br>中学校<br>12 校 1,004<br>人 |
| アウトリーチ活動(出前展示・出前授業)<br>(事業目標 年 3 件) | 通年 | 8 件 691 人                       |
| 学習相談                                | 通年 | 11 件                            |
| 実物資料貸し出し（事業目標 年 6 件）                | 通年 | 5 件 43 点                        |
| 図書貸し出し(物流システム利用、ビデオも含む)             | 通年 | 3 件 6 冊                         |
| 博物館実習生受入                            | 通年 | 2 校 3 人                         |

### ⑦展示更新推進事業

市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、特別展 1 回・企画展 3 回・ロビー展 4 回を開催しました。本館では、歴史展示室の近現代コーナーについて、一部展示替えを行ったほか、市民学芸員郷土を学ぶ会メンバーによる自主企画展を行いました。附属施設となる旧進藤家住宅では、盆栽展や市民学芸員による雛飾り展示などで施設の有効活用を図りました。

また、アクアラインなるほど館は新型コロナウイルス感染症対策のため、令和 2 年 3 月 5 日から休館が継続し、令和 4 年 1 月 22 日から企画展「アクアラインとなるほど館の軌跡」の開催に合わせ、開館しました。

|                                                                                                                                                                                                          |                                                                |                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------|
| <b>★常設展</b><br>本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ケ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとなりました。アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有効活用を図っています。<br>また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、歴史展示室の近現代コーナーの展示替えを行いました。 | 本 館                                                            | 22,928 人                 |
|                                                                                                                                                                                                          | アクアライン<br>なるほど館<br>1 月 22 日（土）～                                | 1,911 人                  |
|                                                                                                                                                                                                          | 旧進藤家住宅                                                         | 17,566 人                 |
|                                                                                                                                                                                                          | 合計                                                             | 42,405 人                 |
| <b>★特別展・企画展</b>                                                                                                                                                                                          |                                                                |                          |
| 市制施行 30 周年記念<br>2021 年企画展『袖ケ浦の美術 中島敏明展 ー画業 50 年の軌跡「elegy と慈愛」ー』                                                                                                                                          | 4 月 1 日（木）～<br>4 月 18 日（日）<br>【令和 3 年 3 月 23 日（火）～4 月 18 日（日）】 | 2,169 人<br><br>【3,663 人】 |
| 企画展Ⅰ「病と医療」                                                                                                                                                                                               | 5 月 1 日（土）～<br>7 月 18 日（日）                                     | 5,304 人                  |
| 市制施行 30 周年記念特別展「かつて見た袖ケ浦の海ー海から見つめる袖ケ浦の 100 年ー」                                                                                                                                                           | 10 月 2 日（土）～<br>12 月 12 日（日）                                   | 5,641 人                  |
| 企画展Ⅱ令和 3 年度出土遺物公開事業「らくがく縄文館ー縄文土器のマナビを楽しむー」                                                                                                                                                               | 1 月 15 日（土）～<br>2 月 27 日（日）                                    | 3,214 人                  |
| 市制施行 30 周年記念<br>企画展Ⅲ「アクアラインとなるほど館の軌跡」<br>※本館ロビー展示の見学人数                                                                                                                                                   | 1 月 22 日（土）～<br>3 月 23 日（水）                                    | 4,113 人                  |
| （事業目標 3,000 人以上／回）                                                                                                                                                                                       | 実績値                                                            | 20,441 人                 |
| <b>★本館ロビー展示・ミニ企画展</b>                                                                                                                                                                                    |                                                                |                          |
| ロビー展 見て☆コレ！2 そではく 見てみて！ コレクション 『袖ケ浦市史研究』と一緒に見てみて！                                                                                                                                                        | 4 月 1 日（木）～<br>4 月 18 日（日）<br>【令和 3 年 3 月 23 日（火）～4 月 18 日（日）】 | 2,169 人<br><br>【3,663 人】 |
| ミニ展示 祝！世界文化遺産への登録勧告 北海道・北東北の縄文遺跡群 ー特別史跡 三内丸山遺跡時代の袖ケ浦ー                                                                                                                                                    | 6 月 12 日（土）～<br>9 月 30 日（木）                                    | 5,173 人                  |
| ロビー展 蔵波城跡御城印発行記念 蔵波城・久保田城と戦国時代の江戸湾                                                                                                                                                                       | 8 月 1 日（日）～<br>1 月 19 日（水）                                     | 9,635 人                  |
| 友の会「盆栽愛好会」秋季盆栽展（会場：旧進藤家住宅）                                                                                                                                                                               | 11 月 12 日（金）～<br>11 月 14 日（日）                                  | 463 人                    |

|                                                           |                       |                     |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 市民学芸員郷土を学ぶ会 自主企画展示「盃状穴（はいじょうけつ）調査グループ調査報告」（特別展示室前通路パネル展示） | 1月22日（土）～<br>4月10日（日） | 4,848人<br>（3月31日現在） |
| 市民学芸員自主企画展示「おひなさま」（旧進藤家住宅）                                | 2月23日（水）～<br>3月31日（木） | 4,183人              |
| ロビー展 市民学芸員葉月の会 植物画作品展「ソデフローラIX」                           | 3月27日（日）～<br>4月10日（日） | 550人<br>（3月31日現在）   |
|                                                           | 合計                    | 27,021人             |

#### ⑧市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。

今年度は、新規市民学芸員の獲得のため、通年での連続講座として市民学芸員養成講座を開催し、併せて既存の市民学芸員の意識向上と学びサポートのため、フォローアップ研修を行いました。

|                                                                                   |                           |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----|
| 市民学芸員養成講座①オリエンテーション「教育普及事業・博学連携事業と市民学芸員活動について」                                    | 4月17日（土）                  | 6人 |
| 市民学芸員養成講座②小学6年生体験学習スタッフ養成講座                                                       | 5月8日（土）                   | 6人 |
| 市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」                                                   | 6月12日（土）                  | 6人 |
| 市民学芸員養成講座④IPMについて学ぼう（博物館実習と合同開催）                                                  | 7月30日（木）                  | 4人 |
| 市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口採点会                                                       | 8月21日（土）                  | 6人 |
| 市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得                                                    | 9月11日（土）                  | 5人 |
| 市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習（石造物等野外調査）                                                    | 10月23日（土）                 | 4人 |
| 市民学芸員養成講座⑧小学3年生体験学習スタッフ養成講座                                                       | 11月27日（土）                 | 6人 |
| 市民学芸員養成講座⑨バス移動講座「博物館と市民のかかわり方ー睦沢町立歴史民俗博物館の活動に学ぶー」睦沢町立歴史民俗資料館見学、資料館学芸員の案内で町内の文化財見学 | 12月11日（土）                 | 9人 |
| 市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎                                                                 | 3月5日（土）<br>（1月22日（土）から延期） | 5人 |

|                                                                         |                              |            |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------|------------|
| 市民学芸員養成講座⑩修了式・記念講演（市民学芸員第2回フォローアップ研修と合同開催）<br>講師：久野一郎氏（睦沢町立歴史民俗資料館 学芸員） | 3月19日（土）<br>（2月11日（金・祝）から延期） | 14人        |
| 市民学芸員第1回フォローアップ研修 「史跡・文化財とまちづくりー富津市の事例に学ぶー」佐貫城址他の見学（バス移動研修）             | 12月15日（水）                    | 10人        |
| 企画展ワーキンググループバス移動研修「菱川師宣記念館の見学と内房の富士」                                    | 11月26日（金）                    | 8人         |
| こどもの日イベント 「市民学芸員と遊ぼう！」（市民学芸員主催）※5月5日（水・祝）予定だったが中止                       | 中止（COVID-19対応）               |            |
| 七夕飾り※展示作業参加者                                                            |                              | 4人         |
| 十五夜コンサート                                                                | 中止（COVID-19対応）               |            |
| 市民学芸員によるお飾り作り体験会 ※一般募集なし、市民学芸員の学習会として実施                                 | 12月22日（水）                    | 7人         |
| ひな人形展示 ※展示作業参加者                                                         | 2月22日（火）                     | 4人         |
| 全体会議・定例会<br>※7月31日（土）、8月29日（日）、1月30日（日）、2月27日（日）は中止                     | 4月25日（日）                     | 12人        |
|                                                                         | 5月30日（日）                     | 13人        |
|                                                                         | 6月27日（日）                     | 9人         |
|                                                                         | 9月26日（日）                     | 13人        |
|                                                                         | 10月30日（土）                    | 7人         |
|                                                                         | 11月27日（土）                    | 9人         |
|                                                                         | 12月19日（日）                    | 9人         |
|                                                                         | 3月27日（日）                     | 13人        |
| 体験学習協力 ※11回実施分の延べ人数                                                     | 5月～1月                        | 54人        |
| 万葉植物園整備（万葉グループ活動）                                                       | 通年                           | 会員数<br>14人 |
| 植物作画活動（葉月の会活動）                                                          | 通年                           | 会員数<br>9人  |
| 地域の史跡・文化財調査（郷土を学ぶ会活動）                                                   | 通年                           | 会員数<br>4人  |
| 企画展ワーキンググループ※グループ人数                                                     | 通年                           | 13人        |

#### ⑨施設管理事業

博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理(修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等)を行いました。また、資料の適正な管理のため、収蔵庫の空調機を修繕し、年間を通してI P M（総合的有害生物管理：日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法）の理念に基づいた展示環境・収蔵環境の管理を実践しました。

また、博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月 1 回の安全点検と消防署の協力を得て、消火訓練を実施しました。

- ・修繕 11 件

- 学芸員室他空調機修繕

- 歴史展示室排煙窓修繕 他

- ・工事 1 件

- 研修室屋上防水改修工事

## 議題（１）令和３年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

### １ 提案理由

博物館法第９条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準第４条第２項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』（別添資料）に基づき、令和３年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

### ２ 郷土博物館の運営の評価について（見直しの経緯）

令和２年度 第２回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３０の展望－』の見直しについて提案

令和３年度 第２回博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』を提示
- ・見直し内容の検討・審議

令和４年度 第１回博物館協議会

- ・改正案『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』による令和３年度の点検と評価の結果を提示（試行的運用・評価基準は従来どおり）
- ・本格的運用の審議（令和４年度事業の点検と評価：議題２）

令和５年度 新たな評価方法に基づいた本格的運用

- ・第１回博物館協議会審議
- ・教育委員会協議会報告
- ・ホームページ上で公表

### ３ 自己評価

#### ①評価項目（そではく３５の展望の３５項目）

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』に示された７つの活動目標を達成するために示した、３５項目の「あるべき姿」に対して、「令和３年度の取り組み」、「成果・効果」、を踏まえて、自己評価した。

#### ②評価基準

評価にあたっては、下記の達成度で評価しているが、定数的な評価が難しい項目が多く、あえて数値目標を設定せず、主観的な達成度として示している。ただし、令和４年度の評価からは、数値指標を設定し、客観的な評価を行うものとする。

◎目標（あるべき姿）に限りなく到達した項目

○目標にある程度達した項目

△取り組んだが目標に達しなかった項目

×取り組まなかった項目

#### 4 「そではく35の展望」評価結果

【R2 年度の評価の扱いについて】R2 年度との比較のため、修正した箇所については下線を付し、若干内容に相違があっても元のあるべき姿が生かされているものについては、R2 年度の評価を記載した。統合されたものについては、／を挿入して統合前の評価を両方記載した。

| 活動目標                        | あるべき姿                                                              | R3 年度<br>評価 | R2 年度<br>評価 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|
| (1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－       | 1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。①                      | ○           | ◎           |
|                             | 2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。②      | ◎           | ◎／◎         |
|                             | 3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。③                    | ◎           | －           |
| (2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－    | 1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。④                                        | ◎           | ○           |
|                             | 2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。⑤                     | ◎           | ◎           |
|                             | 3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。⑥                            | ○           | ○／◎         |
|                             | 4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。⑦                                    | ◎           | －           |
|                             | 5.調査研究の成果が公開されている。⑧                                                | ◎           | ◎           |
|                             | 6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。⑨                        | ○           | ○           |
| (3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－ | 1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。⑩                      | ◎           | ◎           |
|                             | 2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。⑪ | ◎           | ◎／◎         |
|                             | 3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。⑫                | ◎           | ◎           |
|                             | 4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。⑬                              | ◎           | ○           |
|                             | 5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。⑭            | ◎           | ◎           |
|                             | 6.未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。⑮                                          | ○           | ◎           |
|                             | 7.講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。⑯                                       | ○           | ○           |
|                             | 8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。⑰                                 | ◎           | ◎           |

| 活動目標                             | あるべき姿                                                                        | R3 年度<br>評価 | R2 年度<br>評価 |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|
| (3)学習・知的交流の拠点になる ― 展示更新と情報発信 ―   | 9. 図書館が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。⑱                                       | ○           | ○           |
|                                  | 10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。⑲                                               | ◎           | ―           |
|                                  | 11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。⑳                         | ○           | △           |
| (4)地域のつながりを活かす ―市民参画と地域連携―       | 1.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。㉑                                    | ◎           | ○           |
|                                  | 2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。㉒                         | ◎           | ◎           |
|                                  | 3.地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。㉓                                  | ○           | ○           |
|                                  | 4.地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。㉔                              | ◎           | ◎           |
|                                  | 5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。㉕            | ○           | ○           |
| (5)安心・安全な施設にする ―施設の維持管理と来館者への配慮― | 1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。㉖               | ○           | ○           |
|                                  | 2.包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。㉗                                  | ○           | △           |
|                                  | 3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。㉘                                                | △           | ―           |
| (6)博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―        | 1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。㉙         | ○           | ○           |
|                                  | 2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。㉚ | ◎           | ○           |
|                                  | 3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。㉛                                         | ○           | ―           |
| (7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす―自己研鑽と研修参加   | 1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。㉜                                     | ◎           | ―           |
|                                  | 2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。㉝                           | ◎           | ―           |
|                                  | 3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。㉞                            | ◎           | ―           |
|                                  | 4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。㉟                            | ○           | ―           |

①令和3年度評価結果 ※（ ）は令和2年度

◎：20項目（12項目）

○：14項目（15項目）

△：1項目（3項目）

×：0項目（0項目）

②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

## 6 関連法令

### ① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第10条 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

### ② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

令和3年度「そではく35の展望」の点検と評価

◎目標(あるべき姿)に限りなく到達した項目   ○目的にある程度達した項目  
△取り組んだが目的に達しなかった項目   ×取り組まなかった項目

| 活動目標                          | あるべき姿                                                                                                 | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 成果・効果                                                                                                                                                                                                                                           | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の対応                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)<br>地域の資料を守る<br>—資料の収集と保管— | そではく35の展望①<br><br><br><br><br><br><b>1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。</b>                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理<br/>第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下<br/>第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後<br/>第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後</li><li>・収蔵環境調査(7月から11月の間で2回)<br/>①昆虫類生息調査<br/>②空中浮遊カビ類調査<br/>③浮遊塵芥調査(2回目のみ)<br/>④酸・アルカリ調査<br/>⑤有機酸濃度測定調査(1回目のみ)<br/>⑥屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ)</li></ul> 結果：ゴキブリ・ヒメマルカツオブシムシ幼虫の生息が本館各所で見られ、資料への被害が懸念される。<br>第2収蔵庫 酸性傾向<br>・収蔵庫内清掃、資料整理実施<br>・資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施 | <ul style="list-style-type: none"><li>・日常的な管理により適切に保管している。</li><li>・害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。</li><li>・資料整理や清掃を行い、資料の現状把握をすることができた。</li><li>・資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。</li></ul> | ○  | <ul style="list-style-type: none"><li>・第2・第3収蔵庫について、温湿度を適正に管理するためには現状の空調機では老朽化による問題がある。故障により停止した場合、夏季では資料に影響を及ぼすほどの温湿度の上昇が考えられるので、異常に一早く気づくために、平常時から注意が必要。</li><li>・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題が多い。</li><li>・コロナ対応による窓の開放と施設の老朽化により、館内に侵入する昆虫が増えている。</li><li>・第2収蔵庫の酸性傾向が続いており、収蔵資料の確認が必要。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。</li><li>・収蔵庫の空調機は将来の新設へ向け、最新機器や導入事例等を調査する。</li><li>・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。</li><li>・第2収蔵庫については、フィルム等酸性に傾いた資料がないか確認する。</li></ul>  |
|                               | そではく35の展望②<br><br><br><br><br><br><b>2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適性に行われている。</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>・旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え。</li><li>・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。2,889点</li><li>・収蔵資料の修復委託<br/>：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～)<br/>35点実施 726/1,132点<br/>：平成21年度～考古資料(鉄製品)の保存処理の業務委託(国庫補助事業)<br/>※生涯学習課で実施<br/>雷塚遺跡出土鉄製品</li></ul>                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。</li><li>・封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。</li><li>・入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。</li><li>・新収蔵古文書のデータベース化を進めた。</li></ul>                              | ◎  | <ul style="list-style-type: none"><li>・古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。</li><li>・新収蔵古文書の活用のための目録が必要。</li><li>・第3収蔵庫は飽和状態なため、さらに省スペース化を進める必要がある。</li><li>・限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数に限られる。</li></ul>                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・古文書の読める作業者の確保</li><li>・市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録刊行へ向けて作業を進める。</li><li>・埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。</li><li>・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。</li><li>・古文書等、収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。</li></ul> |
|                               | そではく35の展望③<br><br><br><br><br><br><b>3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。</b>               | <ul style="list-style-type: none"><li>・寄贈・寄託資料の受入れ<br/>：新規寄贈資料件数18件</li><li>・古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 3回</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・市内外からの寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。</li><li>・市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。</li><li>・現状では重要な資料の市外流出について、確認することができなかった。</li></ul>                                                                     | ◎  | <ul style="list-style-type: none"><li>・寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料が出てきている。</li><li>・返却した目録掲載資料の現状について把握する必要がある。</li></ul>                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・寄託更新手続きに合わせ、寄贈への変更を勧める。</li><li>・現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。</li></ul>                                                                                                                             |

| 活動目標                         | あ る べ き 姿                                                               | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 成果・効果                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                                                               | 今後の対応                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2)<br>地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー | <p>そではく35の展望④</p> <p>1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。</p>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。</li> <li>・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>：ロビー展示「蔵波城・久保田城と戦国時代の江戸湾」開催</li> <li>：ロビー展示「特別史跡 三内丸山遺跡時代の袖ヶ浦」開催</li> <li>：企画展Ⅰ「病と医療」パンフレット刊行</li> <li>：特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」図録刊行</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。</li> <li>・散策マップ等により、市内に限らず市外・県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。</li> <li>・頻度の高い質問について誰でも対応できるよう、資料を作成し情報共有した。</li> </ul>                                                  | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や情報の整理が未完了です。</li> <li>・専門職員が足りず、対応が後回しになることがある。</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き地域資料や情報の収集及び整理に努める。</li> <li>・散策マップや情報シート等の充実をはかる。</li> </ul>                                                                                                                                                   |
|                              | <p>そではく35の展望⑤</p> <p>2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展・特別展に伴うアンケートの実施3回</li> <li>・市民学芸員・友の会員を対象としたニーズ調査の実施</li> <li>・テーマを設定した調査研究の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>：袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査</li> </ul> </li> <li>・収蔵資料の精査</li> </ul>                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた</li> <li>・市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。</li> <li>・山野貝塚については、継続して行っている調査研究の成果を縄文講座として市民に還元できた。</li> <li>・企画展Ⅰに向けて館収蔵資料の調査を実施し、活用することができた。</li> </ul>                                                                    | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館しない市民のニーズ調査ができていない。</li> <li>・他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保や継続的に取り組むことが難しい。</li> </ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館しない市民へのニーズ調査を工夫する必要がある。</li> <li>・事業のスクラップアンドビルドも検討し、調査研究できる状況を確保できるように努める。</li> </ul>                                                                                                                            |
|                              | <p>そではく35の展望⑥</p> <p>3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館ホームページ上で収蔵資料の公開3件</li> <li>・古文書のデータベース化2,889件（合計94,886件）※令和4年3月現在</li> <li>・会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成</li> <li>・収蔵資料の活用・公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>閲覧20件・資料貸与3件・写真資料掲載許可取り扱い30件</li> </ul> </li> <li>・埋蔵文化財ポジフィルムデジタル化（1,125枚）（平成16年度～平成29年度まで委託により実施令和2年度からは会計年度任用職員により実施）</li> <li>・近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。（会計年度任用職員雇用）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料の検索・管理のため、データベースを公開することができた。</li> <li>・寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。</li> <li>・埋蔵文化財写真のデジタル化を会計年度任用職員により実施した。</li> <li>・資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた民具の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。合わせて、重複の多いもの、破損の著しいものについて、廃棄を行った。</li> </ul> | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない</li> <li>・所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。</li> <li>・近年受け入れた民具の整理に時間を要する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。</li> <li>・博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。</li> <li>・返却された資料の現況調査の必要がある。</li> <li>・近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。</li> <li>・収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。</li> </ul> |
|                              | <p>そではく35の展望⑦</p> <p>4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展に向けて、海の生物・環境についての調査を実施した。</li> <li>・ジュニア学芸員体験と合わせ、袖ヶ浦公園周辺の生物について調査を行った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展で、海の生物・環境についての調査成果を公開することにより、さらなる情報収集や調査の機会へつなげることができた。</li> <li>・ジュニア学芸員体験は、3年継続して実施し、データを蓄積することができた。</li> </ul>                                                                                                                                | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。</li> <li>・蓄積されたデータについて、公開する必要がある。</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。</li> <li>・報告書の刊行等、蓄積されたデータの公開方法について検討する。</li> </ul>                                                                                                                                          |

| 活動目標                            | あ る べ き 姿                                                                          | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 成果・効果                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                                                                                                                                    | 今後の対応                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2)<br>地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー    | そではく35の展望⑧<br><br>5.調査研究の成果が公開されている。                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』第21号の刊行に向けた調査研究と原稿募集</li> <li>企画展・特別展での調査研究成果公開。               <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅰ「病と医療」</li> <li>：特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」</li> </ul> </li> <li>企画展・特別展関連事業（展示解説会）による研究成果発表（13回）</li> <li>袖ヶ浦学による地域研究成果発表。</li> <li>縄文講座の実施による山野貝塚及び袖ヶ浦の縄文時代についての研究成果発表。</li> <li>ホームページで調査研究成果の公開 3件</li> </ul>                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』の原稿募集により、幅広いジャンルにわたる地域に関する最新の研究成果を集約することができた。</li> <li>調査研究の成果を企画展・特別展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。</li> <li>袖ヶ浦学等の講座により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。</li> </ul>                                        | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。</li> <li>継続した研究体制ができていない。</li> <li>学芸員が研究発表の場である袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学での発表が減少している。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員資格を持つ者を中心に、当市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ヶ浦学での研究発表者を募る。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。</li> </ul>                                                                                     |
|                                 | そではく35の展望⑨<br><br>6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>専門研究者から袖ヶ浦市史研究への寄稿 8人</li> <li>講座での専門研究者の発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>：袖ヶ浦学、初歩から始まる大人のための縄文講座</li> </ul> </li> <li>特別展・企画展へ向けた資料調査に係る先進の研究者による助言</li> <li>千葉県教育振興財団巡回展の開催</li> <li>博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>：博物館実習生 3名</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>講座等での講演などを通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。</li> <li>専門的な見地から助言をいただき、博物館活動に良い効果を得ることができた。</li> <li>県レベルの最新研究の成果を展示することができた。</li> <li>次代を担う新たな学芸員を育成することができた。</li> </ul>                                     | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>交流が一時的なもので継続性がない場合が多い。</li> </ul>                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>これからも袖ヶ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。</li> <li>千葉県教育振興財団の巡回展は今後も積極的に受け入れる。</li> <li>袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。</li> </ul>                                |
| (3)<br>学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー | そではく35の展望⑩<br><br>1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展の成果を活かし、常設展示の通史展示（近現代）を部分的に更新した。</li> <li>調査研究の成果の一環として企画展を開催した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。特別展の調査研究成果を常設展示に還元できた。</li> </ul>                                                                                                                                   | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に新たな展示構想を改修計画とあわせて検討する必要がある。</li> <li>常設展示への市民の意向については、あまり把握できていない。</li> </ul>                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。</li> <li>アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。</li> </ul>                                                                                                              |
|                                 | そではく35の展望<br><br>2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展Ⅰをはじめ、地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。</li> <li>企画展による新たな価値の創造               <ul style="list-style-type: none"> <li>：特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」かつての漁業従事者からの情報提供。</li> <li>：企画展Ⅲ「アクアラインとなるほど館の軌跡」来館者のコメントを情報としてそのまま展示し、最終日まで進化する展示を試みた。</li> </ul> </li> <li>展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。</li> <li>企画展チラシ・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。</li> <li>常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。</li> <li>入館者数 3館合計42,405人（内訳：本館22,928人、アクアラインなるほど館1,911人、旧進藤家住宅17,566人）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展Ⅰは、コロナ禍により関心の高い感染症や医療の歴史を、身近な地域の資料により構成したことで、歴史への臨場感を感じさせることができた。</li> <li>特別展は、あまり博物館に来館したことがない家族層に来館を促し、さまざまな志向や世代の来館者を交流させる効果をもたらすことができた。</li> <li>企画展Ⅲでは、来館者からの情報により展示を完成させることで、来館者との一体感を生むことができた。</li> </ul> | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収蔵資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。</li> <li>資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。</li> <li>利用者の共感を得やすい時期（昭和40年代以降など）の資料はさらに展示に増やす必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>業務の中で館内研修を行うなど、職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間を多く設けるように努める。</li> <li>他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。</li> <li>1980～90年代といった親世代の青春時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させるように努める。</li> </ul> |

| 活動目標                                   | あ る べ き 姿                                                                       | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 成果・効果                                                                                                                                                                                                             | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                                            | 今後の対応                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (3)<br>学習・知的<br>交流の拠点になる<br>－展示更新と情報発信 | <p>そではく35の展望⑫</p> <p>3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料を有効活用し、企画展Ⅰ・特別展・企画展Ⅲを開催した。</li> <li>：企画展3回・特別展1回</li> <li>・企画展・特別展入館者数16,711人</li> <li>：内訳 前年度継続2,169人<br/>企画展Ⅰ5,304人<br/>企画展Ⅱ3,214人<br/>企画展Ⅲ6,024人<br/>特別展5,641人</li> <li>・特別展・企画展・常設展示での収蔵資料活用4件</li> <li>・市民学芸員の研究成果を展示した。</li> <li>：「盃状穴調査グループ調査報告」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料を有効活用した企画展やロビー展示の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。</li> <li>・市民学芸員の研究成果を展示することにより、さらなる学習意欲の向上に貢献した。</li> </ul>                                             | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、若手職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要がある。</li> </ul>                                                                                                                                        |
|                                        | <p>そではく35の展望⑬</p> <p>4.常設展の更新や企画展などについても市民が自らの意志で参画している。</p>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員自主企画展示を行った（5件）</li> <li>：七夕展示</li> <li>：十五夜展示</li> <li>：盃状穴調査グループ調査報告</li> <li>：旧進藤家住宅ひな人形展示</li> <li>：ソデフローラⅨ 植物画展</li> <li>・令和4年度開館40周年企画展「富士山－畏れ・敬い・憧れ－」の開催に向けて、企画展ワーキンググループを結成し、調査・研究等の活動を行った。</li> <li>・友の会盆栽の会による盆栽展を行った。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。</li> <li>・企画展ワーキンググループは、月1回程度の全体ミーティングの他、チームや個人で調査研究を重ねることができた。</li> <li>・盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。</li> </ul> | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示・企画ができる市民学芸員に限られ、負担も大きいものとなっている。</li> <li>・盆栽の会以外の友の会員もミュージアムフェスティバル以外に展示の機会を検討する必要がある。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。</li> <li>・市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。</li> <li>・ワーキンググループは今後も必要に応じて結成し、活動する。</li> <li>・市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場はさらに充実させる。</li> </ul> |
|                                        | <p>そではく35の展望⑭</p> <p>5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての来館者が展示を理解できるように、QRコード等の活用により、補足的な説明手段の検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達手段を増やすことで多くの人々に発信することができた。</li> </ul>                                                                                                                                 | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示やホームページに多言語対応ができていない。</li> <li>・館内のインターネット等の電波状況が悪い。</li> <li>・外国人展示を理解できるような展示解説などの多言語化が進んでいない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語化については、可能なことから対応を進める。</li> </ul>                                                                                                                                                                    |
|                                        | <p>そではく35の展望⑮</p> <p>6.未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。</p>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアム・フェスティバルに代えて、そではく体験会を開催した。</li> <li>：ミュージアムフェスティバル入場者数238人</li> <li>・講座「袖ヶ浦学」 3回開催</li> <li>・公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。</li> </ul>                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖ヶ浦学は、企画展・特別展に関連して開催し、多くの参加者を得た。</li> <li>・これまで、公民館は利用するが博物館へは来たことがなかった公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。</li> </ul>                                                             | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館に全く来ない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。</li> <li>・公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。</li> </ul>                                                                                                                   |

| 活動目標                                       | あ る べ き 姿                                                            | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                   | 成果・効果                                                                                                                                                             | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                               | 今後の対応                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (3)<br>学習・知的<br>交流の拠点になる<br>一展示更新と情報<br>発信 | そではく35の展望⑩<br><br>7.講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。                        | ・展覧会等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかりサーチした。<br>・3年間継続して「初歩から始める大人のための縄文講座」を開催した。<br>・市民の関心が高い上総掘りについて、連続講座を開催し、映像記録を作成した。<br>：上総掘り講座 10回開催                                   | ・アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。<br>・「初歩から始める大人のための縄文講座」により、縄文時代について1 から学びたいという要望に応えた。<br>・他の社会教育施設の状況を知ることで、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。 | ○  | ・アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。  | ・アンケートは引き続き実施する。<br>・公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。<br>・常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。<br>・上総掘りについては引き続き講座を開催する。 |
|                                            | そではく35の展望⑪<br><br>8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。                  | ・ホームページ・ツイッターを利用したPR活動や情報提供。<br>ホームページ更新回数 23回<br>・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。                                                                                                                                  | ・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた。                                                                                                                                       | ◎  | ・PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。<br>・SNS等に関する職員の知識が不足している。 | ・新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。<br>・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。<br>・SNS等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。                  |
|                                            | そではく35の展望⑫<br><br>9.図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。               | ・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス<br>・図書室での図書閲覧やコピーサービス<br>・図書室を利用しやすいように整備した。<br>図書室利用件数 9件<br>・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターに提供した。                                                                                 | ・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。<br>・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。<br>・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターと共有することができた。                                                  | ○  | ・物流ネットワークについては今一つ利用が促進されてない。<br>・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。          | ・学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークをさらに活用できる体制を整える。<br>・図書室常時開室へ向けて検討する。                                                                       |
|                                            | そではく35の展望⑬<br><br>10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。                      | ・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。<br>レファレンス件数43件                                                                                                                                                           | ・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。<br>・利用者からの質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。                                                                      | ◎  | ・質問・相談の内容によっては、対応できる職員に限られる。                                             | ・簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。                                                                                              |
|                                            | そではく35の展望⑭<br><br>11.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。 | ・コロナ禍のため、一般の利用者同士の交流はできなかった。<br>・市民学芸員や友の会員は、研修室・体験学習室・図書室等を活用し、グループ活動を行った。<br>活動件数 127回                                                                                                                     | ・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。                                                                                                                              | ○  | ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の利用者同士の交流はまだ積極的には勧められない。                           | ・コロナ規制の緩和とともに、利用者同士が交流できるスペースの設置について、検討する必要がある。                                                                                         |
| (4)<br>地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー              | そではく35の展望⑮<br><br>1.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。           | ・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。<br>：市民学芸員 43名<br>：博物館友の会 63名<br>(令和4年3月末現在)<br>・市民学芸員養成講座の通年開催 11回<br><br>・上総掘り技術伝承研究会との協働による上総掘り講座の実施と記録映像撮影<br>：上総掘り技術伝承研究会員 16名<br>：上総掘り体験講座回数 10回 | ・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。<br>・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに7名が市民学芸員となった。<br>・上総掘り講座と記録映像により、上総掘り技術の担い手育成の基盤が整った。                                 | ◎  | ・参加する市民学芸員・友の会員の固定化や高齢化が進んでいる。<br>・新規参加者についても、継続のための工夫が必要。               | ・さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人が活動に関心を持てるように促す。<br>・講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。<br>・市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。                                  |

| 活動目標                      | あ る べ き 姿                                                                                  | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 成果・効果                                                                                                                                                                                                                                                                   | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                               | 今後の対応                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー | <p>そではく35の展望②②</p> <p>2.市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。</p>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展、ロビー展及び関連事業の実施</li> <li>市民学芸員・友の会との自主企画展の実施 7回</li> <li>友の会主催「もっと知りたい講座」開催</li> <li>博物館を拠点として活動している団体による地域貢献               <ul style="list-style-type: none"> <li>：市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。</li> <li>友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。</li> <li>市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。</li> <li>直近の公民館である根形公民館とは相互協力ができた。</li> </ul>                                                            | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。</li> <li>公民館講座への出前は増えているが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する機関・地域・団体等同士の連携を博物館がサポートする。</li> <li>根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。</li> <li>公民館・図書館との連携をさらに促進する。</li> </ul> |
|                           | <p>そではく35の展望②③</p> <p>3.地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館との連携を強化した。</li> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や公民館講座で地域散策を行った。</li> <li>夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館との連携の促進                   <ul style="list-style-type: none"> <li>：根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座</li> </ul> </li> <li>協力した公民館講座等の件数：14件</li> <li>根形公民館報 原稿提供1件</li> </ul> </li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。</li> <li>博物館が歴史や文化び拠点であること、情報を集積させている施設であることを印象付けることができた。</li> <li>市民会館等、公民館の講座等での利用が拡大し、博物化の活動について、さらに多くの市民に周知することができた。</li> </ul>                                                            | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。</li> <li>地域連携による成果を発信できるように努める。</li> </ul>                                                                      |
|                           | <p>そではく35の展望②④</p> <p>4.地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。②④</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校3年生、6年生の校外学習支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>：12校（3年生6校、6年生6校）</li> <li>：ボランティア参加延べ人数 54人</li> </ul> </li> <li>実物資料、教材の貸し出し 5件</li> <li>教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 6件（小学校3・中学校1・高校2）</li> <li>小中学生の調べる学習への支援 13件</li> <li>教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築</li> </ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。</li> <li>袖ヶ浦高校の協力により、高校へのアウトリーチが実現した。</li> <li>教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、連携が蜜になり、学校と博物館の距離が近くなった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築により、中学校へのアピールができた。</li> </ul> | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により、平常時に比べて十分な対応ができなかった。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の拡大等、さまざまなシチュエーションを想定し、アウトリーチの拡大や新たなプログラムの開発等について、さらなる検討が必要。</li> <li>博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。</li> </ul>                               |
|                           | <p>そではく35の展望②⑤</p> <p>5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 15件</li> <li>君津地方公立博物館協議会へ参加               <ul style="list-style-type: none"> <li>：研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。</li> </ul> </li> <li>千葉県博物館協会への参加</li> <li>千葉県史料保存活用連絡協議会へ理事・運営委員として参加</li> <li>NPOとの連携。               <ul style="list-style-type: none"> <li>：資料貸出や情報交換（しいの森里山会、盤洲干潟を守る会）</li> </ul> </li> <li>万葉植物園で、Sodegaura’s結びと守りの会のイベント開催</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。</li> <li>千葉県資料保存活用協議会では、連絡誌に執筆の機会を得て、博物館の取り組みをアピールすることができた。</li> <li>Sodegaura’s結びと守りの会のイベント開催では、万葉植物園の新たな可能性を見出すことができた。</li> </ul>                                                                   | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に地域の企業やNPOとの連携が図れていない。</li> </ul>                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業やNPO等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。</li> </ul>                                                                                                       |

| 活動目標                                | あ る べ き 姿                                                                                               | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                                                                                               | 成果・効果                                                                                                                                                                                                                                                 | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                                                        | 今後の対応                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (5)<br>安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー | <p>そではく35の展望②⑥</p> <p>1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な施設、設備の点検の実施及び修理の実施</li> <li>急な故障や破損等の修繕 11件</li> <li>計画的な修繕工事 1件</li> <li>月1回の安全点検の実施</li> </ul>                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。</li> <li>博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。</li> </ul>                                                                                             | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生する。</li> <li>不具合の発生に伴い、事務の対応に時間を有する。</li> <li>改修計画が立てられていない。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。</li> <li>展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。</li> </ul>                                              |
|                                     | <p>そではく35の展望②⑦</p> <p>2.包摂的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。</p>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。31件（288人）</li> </ul>                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者施設からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。</li> <li>特別展は、かつて漁業に従事していた高齢者からも好評であった。</li> </ul>                                                                                                                    | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、以前からの施設的な課題は解消されていない。</li> <li>多言語化対応ができていない。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。</li> <li>多言語化については、可能なことから対応を進める。</li> <li>利用者からの要望をリサーチする必要がある。</li> </ul> |
|                                     | <p>そではく35の展望②⑧</p> <p>3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。</p>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>旧進藤家住宅において防災訓練を実施している。1回</li> </ul>                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練により、災害時にとるべき行動を確認することができた。</li> </ul>                                                                                                                                                                      | △  | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館独自の危機管理マニュアルが整備されていない。</li> <li>年1回防災訓練は実施するが、災害時に適切な行動ができるか不安は多い。</li> <li>本館で避難訓練を実施していない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館独自の危機管理マニュアルを至整備する必要がある。</li> <li>本館の避難訓練の計画を立てる。</li> </ul>                                                                     |
| (6)<br>博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー       | <p>そではく35の展望②⑨</p> <p>1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施</li> <li>袖ヶ浦公園主催事業への協力</li> </ul>                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。</li> </ul>                                                                                                   | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学や研究機関と連携した事業展開が図れていない。</li> <li>袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展等の成果を元に、大学や研究機関との連携について検討する。</li> <li>袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。</li> <li>他機関との連携について、先進事例を調査する。</li> </ul>                          |
|                                     | <p>そではく35の展望③⑩</p> <p>2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。③⑩</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援</li> <li>市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアを育成</li> <li>市民学芸員との協働による令和4年度企画展へ向けた調査研究</li> <li>フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 2回</li> <li>山野貝塚ボランティア育成（生涯学習課事業）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。</li> <li>市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。</li> <li>次年度の企画展という具体的な目標を持つことにより、活動を計画的に進めることができた。</li> <li>研修に参加することで市民学芸員や山野貝塚ボランティアの向学心を刺激することができた。</li> </ul> | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。</li> <li>研究発表しやすい環境を整える。</li> </ul>                                        |
|                                     | <p>そではく35の展望③⑪</p> <p>3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。</p>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者との交流、回想法の試み 特別展準備に伴う意見交換・インタビュー 2件</li> </ul>                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展に関連した意見交換・インタビュー等が高齢者の記憶をよみがえらせ、意欲向上に貢献した。</li> </ul>                                                                                                                                                       | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで単発的な活動しかできていない。</li> <li>公民館高齢者学級等との連携がなされていない。</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。</li> <li>公民館講座との連携や屋外施設を活用した健康講座の実現に向けた情報提供。</li> </ul>                                                   |

| 活動目標                              | あ る べ き 姿                                                                  | 令和3年度の取り組み                                                                                                                                                                           | 成果・効果                                                                                                                                                                                        | 評価 | 課題・問題点・改善点                                                                                                      | 今後の対応                                                                                                                 |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー | <p>そではく35の展望⑳</p> <p>1.館長は、研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国博物館長会議への出席</li> <li>・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席</li> <li>・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国博物館長会議（オンライン）に参加し、最新の博物館事情を収集して、博物館運営の参考とすることができた。</li> <li>・関東地区博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会の理事を務め、他館の館長と情報を共有することができた。</li> </ul>                        | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本博物館協会等、遠方で開催される会議・研修会が多い。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。</li> <li>・オンライン会議には積極的に参加する。</li> </ul> |
|                                   | <p>そではく35の展望㉑</p> <p>2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席</li> <li>・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等に参加し、知見を深めることができた。</li> <li>・千葉県博物館協会の地域振興委員、千葉県史料保存活用連絡協議会の運営委員を務め、他館の職員との交流し情報を共有することができた。</li> </ul> | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本博物館協会等、遠方で開催される会議・研修会が多い。</li> <li>・コロナ禍により各協議会の活動が低下している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。</li> <li>・オンライン開催には積極的に参加する。</li> </ul> |
|                                   | <p>そではく35の展望㉒</p> <p>3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加</li> <li>・君津地方社会教育研究会への参加</li> <li>・『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿</li> <li>・他機関から依頼された講座での講演。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・君津地方社会教育研究会主催の研修会に参加し、知見を深めるとともに、他市職員と交流し情報を共有することができた。</li> <li>・根形公民館地域再発見講座をはじめ、他機関で講演することで、博物館活動の一端を周知させることができた。</li> </ul>                      | ◎  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。</li> </ul>                             |
|                                   | <p>そではく35の展望㉓</p> <p>4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会・君津地方社会教育研究会主催の研修会への事務職員の参加</li> <li>・その他研修会への事務職員の参加</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会等に参加し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。</li> </ul>                                                                                                 | ○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務職員の研修の機会が少ない</li> </ul>                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する研修会には出席できるようにする。</li> </ul>                                               |

## 議題（２）令和４年度郷土博物館の運営に関する点検と評価にかかる目標値について

### １ 提案理由

令和４年度の博物館事業について点検・評価を行い、先々の博物館運営の改善をはかるための指標とするため成果指標となる目標値案を示し、博物館協議会に意見を求めるものである。

なお、事業の目標値については、令和２年度から審議を継続してきた、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』に掲げる７つの活動目標を達成するために示した３５項目の「あるべき姿」になるための取り組みに対する成果指標として数値化したものである。

### ２ 目標値設定の考え方

目標値については、数値目標の設定が難しいと判断し、これまで設定していなかったため、感覚的な評価になっており、必ずしも適正な博物館運営に対する評価が行われていたとは言えない。

そのため、客観的に博物館の運営について評価する必要があるため、３５項目にわたる「あるべき姿」すべてに目標値を設置した。

目標値の設定にあたっては、令和３年度に実施した取り組みの成果をもとに設定し、年度ごとに設定するものとする。数値目標が難しい項目については、客観的に評価できる目標値を設定することとする。

### ３ 評価の方法

#### (1)これまでの評価方法

- ・これまでの評価は、「あるべき姿」の取り組み内容を分析した効果・成果内容により、下記の達成度で評価していた。
- ・定数的な評価が難しい項目が多いため、主観的な達成度として示していた。
  - ◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目
  - 目的にある程度達した項目
  - △取り組んだが目的に達しなかった項目
  - ×取り組まなかった項目
- ・総合的な数値評価を示していなかった。客観的な評価ではない。

↓

令和３年度第２回袖ヶ浦市郷土博物館で新たな評価方法の検討・承認

#### (2)新たな評価方法

・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の４段階で表示

◎：目標値に対して100%以上の達成率

○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率

△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率

×：目標値に対して60%未満の達成率

・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動指標ごとの平均値を出

し、A、B、Cの３段階で評価

A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）

B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）

C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。

（18点未満）

### 3 令和4年度「そではく35の展望」事業目標値

| 活動目標                        | あるべき姿                                                                | 目標値の考え方                   | 目標値             |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------------|
| (1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－       | 1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①                      | 収蔵庫環境調査回数                 | 2回              |
|                             | 2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②      | 収蔵資料の保存修復委託件数             | 1件              |
|                             | 3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③                    | 資料購入を目的とした市場調査回数          | 1回              |
| (2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－    | 1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④                                        | ロビー展示の開催回数                | 2回              |
|                             | 2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤                     | 企画展アンケート実施回数              | 3回              |
|                             | 3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥                            | ホームページで資料の公開件数            | 3件              |
|                             | 4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦                                    | ジュニア学芸員体験の実施回数            | 1回              |
|                             | 5.調査研究の成果が公開されている。展望⑧                                                | 市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数 | 2件              |
|                             | 6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。展望⑨                        | 考古学専門講座講師との情報交換件数         | 1件              |
| (3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－ | 1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩                      | 常設展示の展示替え                 | 1回              |
|                             | 2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪ | 企画展・特別展に関連した刊行物の刊行        | 2件              |
|                             | 3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫                | 企画展・特別展見学者数               | 1回の見学者平均 5,000人 |

| 活動目標                        | あるべき姿                                                                    | 目標値の考え方                    | 目標値                            |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| (3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－ | 4. 常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。<br>展望⑬                             | 市民学芸員自主企画展実施回数             | 5 回                            |
|                             | 5. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。<br>展望⑭           | QRコードの活用                   | 1 件                            |
|                             | 6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。<br>展望⑮                                         | ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数 | 135 人                          |
|                             | 7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。<br>展望⑯                                      | 企画展・講座でのアンケート調査件数          | 5 件                            |
|                             | 8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。<br>展望⑰                                | ホームページ更新件数                 | 25 回                           |
|                             | 9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。<br>展望⑱                             | 図書室利用件数                    | 10 件                           |
|                             | 10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。<br>展望⑲                                    | レファレンス件数                   | 45 件                           |
|                             | 11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。<br>展望⑳               | 市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数    | 130 件                          |
| (4)地域のつながりを活かす－市民参画と地域連携－   | 1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。<br>展望㉑                         | 市民学芸員・友の会員の会員数             | 105 人<br>(市民学芸員 45 人・友の会 60 人) |
|                             | 2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。<br>展望㉒               | 市民学芸員・友の会自主事業実施回数          | 5 回                            |
|                             | 3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。<br>展望㉓                       | 公民館講座への協力・講師派遣             | 3 件                            |
|                             | 4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。<br>展望㉔                   | 校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数   | 延べ 55 人                        |
|                             | 5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。<br>展望㉕ | 他団体との連携事業の実施回数             | 3 回                            |

| 活動目標                            | あるべき姿                                                                           | 目標値の考え方                    | 目標値              |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------------------|
| (5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー | 1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望②⑥                | 施設の安全点検の実施回数               | 12 回（月 1 回）      |
|                                 | 2.包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望②⑦                                  | 福祉施設見学受け入れ件数               | 30 件             |
|                                 | 3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望②⑧                                                | 防災訓練の実施回数                  | 年 2 回（本館・旧進藤家住宅） |
| (6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー       | 1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望②⑨         | 袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数          | 1 回              |
|                                 | 2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望③⑩ | 市民学芸員養成講座実施回数              | 10 回             |
|                                 | 3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望③⑪                                         | 高齢者学級等への協力回数               | 1 回              |
| (7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加  | 1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望③⑫                                     | 国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数 | 1 回              |
|                                 | 2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③⑬                           | 国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する | 3 回              |
|                                 | 3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望③⑭                            | 他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数   | 1 回              |
|                                 | 4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③⑮                            | 研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数    | 1 回              |

|                                                                  |                | 内容等                                                                      | 4月                                        | 5月                                           | 6月                              | 7月                                      | 8月                                    | 9月                             | 10月                                                    | 11月                                          | 12月                           | 1月                                         | 2月                                            | 3月                 |
|------------------------------------------------------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------|
| 博物館協議会                                                           |                | 年3回開催                                                                    |                                           |                                              |                                 | 第1回                                     |                                       |                                |                                                        | 第2回                                          |                               |                                            | 第3回                                           |                    |
| 教育普及事業                                                           | ミュージアム・フェスティバル | 年1回開催                                                                    | 第1回実行委員会                                  | 第2回実行委員会                                     |                                 |                                         |                                       |                                |                                                        | 26(土)・27(日)ミュージアム・フェスティバル<br>第3回実行委員会        |                               |                                            |                                               |                    |
|                                                                  | 講座<br>袖ヶ浦学     | 年5回開催                                                                    | 24(日)第162回袖ヶ浦学(友の会共催)「弥生農耕の実像を探る」講師:大谷弘幸氏 |                                              |                                 |                                         | 28(日)第163回袖ヶ浦学「頼朝がたどった道」講師:笹生浩樹氏      |                                |                                                        | 15(土)第164回袖ヶ浦学(企画展関連)「房総の富士講と富士塚(仮)」講師:高橋克氏  | 第165回袖ヶ浦学「指定文化財鮑富神社東照宮修復見学」   |                                            | 第166回袖ヶ浦学「野鳥観察」                               |                    |
|                                                                  | 博物館学芸員実習       | 前年度1月に受け入れ要項作成                                                           | ・大学からの実習依頼文<br>・回答                        |                                              |                                 | 実習予定表作成・送付<br>7/26(火)～8/5(金)(10日間)博物館実習 | 7/26(火)～8/5(金)(10日間)博物館実習<br>大学宛評価表送付 |                                |                                                        |                                              |                               |                                            |                                               |                    |
|                                                                  | その他            |                                                                          |                                           |                                              |                                 | 30(土)ジュニア学芸員養成講座                        |                                       | 上総掘り撮影                         | 上総掘り撮影<br>考古学専門講座                                      | 上総掘り撮影<br>上総掘り講座                             | 上総掘り講座                        | 考古学専門講座                                    | 考古学専門講座                                       |                    |
| 博学連携事業                                                           | 校外学習支援等        | 体験学習支援<br>学習相談対応<br>資料・図書貸出                                              |                                           | 【6年生】27(金)奈良輪小                               | 【6年生】1(水)中川小・29(水)平岡小           | 【6年生】1(金)根形小5(火)6(水)昭和<br>小・13(水)長浦小    |                                       |                                |                                                        |                                              |                               | 【3年生】11(水)根形小・17(火)18(水)奈良輪小・19(木)20(金)蔵波小 | 【3年生】1(水)平岡小・2(木)3(金)昭和<br>小・7(火)長浦小・10(金)中川小 |                    |
|                                                                  | 出前授業・展示        | アウトリーチ<br>出前展示の実施                                                        |                                           |                                              | 【6年生】9(木)蔵波小・24(金)昭和<br>小       | 【6年生】7(木)奈良輪小                           | 【教職員研修】19(金)中川小                       |                                |                                                        |                                              |                               |                                            |                                               |                    |
|                                                                  | その他            |                                                                          |                                           |                                              |                                 |                                         |                                       |                                |                                                        |                                              |                               |                                            |                                               |                    |
| 展示更新推進事業                                                         | 特別展・企画展        | 企画展年3回開催                                                                 |                                           | 5/1(日)～7/3(日)<br>企画展Ⅰ「館蔵資料展　くらし・おひろめⅡ」       |                                 |                                         |                                       |                                | 10/1(土)～12/18(日)<br>開館40周年記念　市民学芸員自主企画展「富士山ー畏れ・敬い・憧れー」 |                                              |                               |                                            |                                               | 企画展「袖ヶ浦の美術Ⅱ　辻元大雲展」 |
|                                                                  | トピックス展　ミニ展示    |                                                                          | ロビー展示「ソデフローラⅨ」                            |                                              |                                 |                                         | 博物館実習展                                |                                | そではく40年のあゆみ(ポスター展)                                     |                                              |                               | ロビー展示「日本の郷土風」                              | ロビー展示「ソデフローラⅩ」(時期未定)                          |                    |
|                                                                  | 旧進藤家住宅         |                                                                          |                                           | 市民学芸員五月人形飾り                                  |                                 | 市民学芸員七夕飾り                               |                                       |                                |                                                        | 盆栽展                                          |                               |                                            |                                               | ひな人形展示(旧進藤家住宅)     |
|                                                                  | 万葉植物園          |                                                                          |                                           |                                              | 歌碑の活用                           |                                         |                                       |                                |                                                        |                                              |                               |                                            |                                               | ひな人形展示             |
| 地域資料管理活用事業                                                       | 資料管理活用         | ・収蔵資料保存管理活用<br>・資料燻蒸<br>・環境調査委託                                          |                                           |                                              | 環境調査(1回目)                       |                                         |                                       |                                | 環境調査(2回目)                                              |                                              | 資料燻蒸                          |                                            |                                               |                    |
|                                                                  | 史料修復　奈良輪漁協     |                                                                          |                                           |                                              |                                 | 史料修復委託執行<br>伺い・契約                       |                                       |                                |                                                        |                                              | 史料修復成果品納品<br>校正               | 刊行                                         |                                               |                    |
|                                                                  | 『市史研究』第21号     | 要項整備・原稿募集                                                                |                                           |                                              |                                 |                                         | 編集作業                                  | 編集作業                           | 編集作業                                                   | 入稿                                           |                               |                                            |                                               |                    |
| 市民学芸員協働事業                                                        | 市民学芸員活動        | 体験学習支援<br>自主企画展企画ほか<br>・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園)<br>・葉月の会　第3土曜日午後活動(体験学習室) | 市民学芸員フォローアップ研修                            | 5(水)こどもの日イベント<br>五月人形飾り<br>フォローアップ研修(バス移動講座) |                                 | 七夕飾り                                    |                                       | 十五夜飾り                          |                                                        | 26(土)・27(日)ミュージアム・フェスティバル協力                  | お飾りづくり<br>バス移動講座              |                                            | 市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)                  | お雛様飾り              |
|                                                                  | 市民学芸員養成講座      |                                                                          | 市民学芸員養成講座①オリエンテーション                       | 市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座                 | 市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」 | 市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぶ(博物館実習と合同)          | 市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口採点会           | 市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得 | 市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習                                   | 市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)               | 市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座  | 市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎                          | 市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)             |                    |
| 友の会<br>7グループ<br>(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会盆栽愛好会)活動 |                | 協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか<br>第2・4金曜日古文書いろはの会<br>毎週水曜日機織りの会                   |                                           | 4(火)千葉県主催「かずさの国風あげフェスタ」<br>総会・講演会            |                                 |                                         |                                       |                                | 第1回役員会                                                 | 自然と歴史の散策会<br><br>26(土)・27(日)ミュージアム・フェスティバル協力 |                               | 新春風揚げ大会                                    | 26日(火)第2回役員会                                  |                    |
| 上総掘り技術伝承研究会                                                      |                | 定例活動日<br>毎週日曜日・又は土曜日                                                     | 総会                                        |                                              |                                 |                                         |                                       |                                |                                                        | 26(土)・27(日)ミュージアム・フェスティバル協力                  |                               |                                            |                                               |                    |
| 休館日<br>(月曜以外)                                                    |                |                                                                          |                                           | 6(金)                                         |                                 | 19(火)                                   | 12(金)                                 | 20(火)                          | 11(火)                                                  | 4(金)<br>24(木)                                | 27(火)・28(水)・29(木)・30(金)・31(土) | 1(日)・3(火)・4(水)・10(火)                       | 24(金)                                         | 22(水)              |